



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 千代田化工建設株式会社

## 給与条件契約更改制 (A)

5

1967年10月25日の朝日新聞（朝刊）は、千代田化工建設株式会社が同年11月1日より実施を予定している「給与条件契約更改制」について、つぎのごとく報じている。「給与改善、いつでも話し合い」千代田化工42才以上契約更改制：42才以上の従業員に対しては、申入れがあればいつでも給与の改善要求に応じます。合意がなければやめるのは自由—三菱系の総合プラントメーカーである千代田化工建設は、去年10月以来わが国では珍しい能力主義を柱にした『給与条件契約更改制』を労組に提出していたが、24日労使間で協定書の正式調印が行なわれた。この新制度は来月1日から実行に移される。……（中略）……同社がこのような新制度を採用することになった背景には、資本自由化を契機として外資系同業者の日本進出がはげしく、将来優秀な技術者の引抜き合戦も考えられるが、いまの給与体系だけでは能力のある人材を処遇して引止めておくことが出来なくなる。また、このような新制度が社内に刺激を与え、能力開発に役立つ。さらに従業員の立場からも、自分の能力に見切りをつけてやめるような場合は、55才の定年までつとめるより、42才という比較的まだ若い年のうちにやめる方が「第2の人生」の設計に有利である、などの理由やねらいがある。いずれにしても新しい時代の要請に応じてかなり厳しい実力主義、能力主義を前面に打出したもので、新しい人事管理方式として産業界にかなりの影響を与えるものとみられている。

10

15

20

### 会 社 の 概 要

会社の概要：千代田化工建設株式会社は、1948年1月に、三菱石油の工事部門から分離独立し、化学工業をはじめとする各種産業設備の設計建設を専門に行なう総合プラントメーカーとして発足した。発足当時の資本金は100万円、従業員数は28名であった。以後、太平洋沿岸石油精製所の再開から今日の技術革新時代に至る、わが国産業の復興発展の蔭の立役者として活躍する一方、プラント輸出にも力を注ぎ、今日では（1969

25

---

慶應義塾大学ビジネス・スクールによって開発されたケースは、クラス討議の資料として作成されたもので、経営管理に関する適切な処理また不適切な処理を例示しようとしたものではない。

30

本ケースの著作権は、昭和44年（1969年）慶應義塾大学ビジネス・スクールによって所有されている。

本ケースの作成に際しては、千代田化工建設株式会社社長玉置明善氏ならびに人事担当大町真一氏より、絶大な御協力を得たことを特に記ので、感謝の意を表したいと思います。

〔作成者：関本昌秀・石田英夫〕